

経営体育成基盤整備事業

土地改良事業計画概要書

(区 画 整 理)
(第 2 回 変 更)

県 地 所 事 業 主 体 名 在 地 体 岩 角 奥 岩 州 川 市 手 江 原 刺 県

土地改良事業計画概要書

— 目 次 — (第2回変更)

第1章	目的	1
第2章	地域の所在及び現況	1
第1節	地域の所在	1
第2節	現況	2
第3節	水利状況	4
第4節	営農状況	4
第5節	地域環境の概況	5
第3章	基本計画	6
第1節	計画の要旨	6
第4章	工事又は管理の要領	7
第1節	工事の施工計画	7
第2節	管理の要領	7
第3節	予定工期	7
第5章	換地計画の要領	7
第1節	換地計画樹立の必要性	7
第2節	換地計画樹立の基本方針	7
第3節	土地改良法第5条第6項に規定する国有地等の編入承認に係る地積	8
第4節	非農用地の換地方法	9
第6章	費用の概算	10
第7章	効用	11
第8章	他の事業との関係	11
第9章	計画概要図	11

第1章 目 的

上段:変更後
下段:変更前

本地区は、奥州市江刺の北東部に位置し、一級河川広瀬川左岸沿いに形成された丘陵部に散在する水田地帯である。

本地区の水田の整備状況は、昭和30年代の猿ヶ石開拓事業及び昭和40年代の非補助土地改良事業により整備されてはいるが、区画は5～10aと小区画かつ不整形であり、農道も2.0～3.0mと狭小なため、農業機械の作業効率の低下をきたしている。また、水路は用排兼用の土水路が多く、断面が狭小で深さも浅く十分な排水機能を果たしていないため、水田の汎用化が行えない状況にある。

これらのことから、効率的な農業生産を行うことが困難であり、担い手の育成及び、農地集積の妨げになっている。

以上の問題を解決するため、本計画により農業基盤を整備することにより、農作業の効率化と労力経費の節減を図り、担い手農家への農地集積を推進し、地域活性を目指すものである。

地 積

(単位：ha)

現況地目 市町村名	水 田	普通畑	樹園地	小計	山林原野	その他	合 計
奥州市	45.9	〃	〃	46.0	1.1	12.9	60.0
	46.3	0.1	—	46.4	1.2	13.0	60.6

第2章 地域の所在及び現況

第1節 地域の所在

〃
岩手県奥州市江刺梁川、広瀬地内

第2節 現 況

上段:変更後
下段:変更前

第1項 地形、地質及び土壌

本計画地域は、奥州市江刺の北東部に位置し、一級河川広瀬川沿いにある標高500m前後の低山地に囲まれた地域である。地形は、河川に沿う東西方向に1/16程度の急な傾斜を形成しており、標高は105~178mである。

地質の母材は、非固結水成岩、土壌は強グライ土壌粘土斑鉄型 (D33)、灰色土壌粘土構造型 (F50)、灰褐色土壌強粘土構造型 (G60)、黄褐色土壌強粘土型 (181-2) である。

第2項 気 象

(1) 一般気象

(岩手県農林水産部農村計画課 計画樹立参考資料 平成26年3月版)

観測所名	江刺気象観測所	かんがい期	非かんがい期	計	備 考
観測期間	H15~H24年	5月~8月	9月~4月	又は平均	
平均気温 (°C)		20.4 °C	6.5 °C	11.2 °C	
降水量	平均 (mm)	500.1 mm	666.4 mm	1,166.5 mm	
	基準年 (mm)	— mm	— mm	— mm	
降水日数	平均 (日)	45 日	95 日	139 日	
	基準年 (日)	— 日	— 日	— 日	
根雪期間		— 月 — 日 ~ — 月 — 日		— 日間	
無霜期間		4 月 30 日 ~ 10 月 24 日		178 日間	
最多風向		NW	最大風速 (風向)	15.2 m/s ()	最多風向発生時期 月~月 最大風速発生年月日

(2) 特殊気象

〃
(岩手県農林水産部農村計画課 計画樹立参考資料 平成26年3月版)

観測所名	第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位			備考
	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	
〃 米里気象観測所																
〃 M42年～H24年																
最大日雨量 (mm) M42年～H24年	〃 184	〃 S23. 9/16	〃 1/750	〃 139	〃 S43. 8/11	〃 1/83	〃 135	〃 H2. 11/4	〃 1/68	〃 130	〃 S62. 8/17	〃 1/52	〃 115	〃 S23. 10/5	〃 1/24	
最大時間雨量 (mm) S29年～H24年	〃 48. 5	〃 H20. 7/28. 15	〃 1/70	〃 46	〃 H2. 11/4. 22	〃 1/52	〃 45	〃 S37. 8/27. 3	〃 1/46	〃 39	〃 S30. 9/6. 22	〃 1/21	〃 36	〃 H22. 8/4. 20	〃 1/14	
最大4時間雨量 (mm) S29年～H24年	〃 91	〃 H2. 11/4. 23	〃 1/152	〃 75	〃 H20. 7/28. 17	〃 1/38	〃 74. 5	〃 H20. 7/28. 18	〃 1/36	〃 74. 5	〃 H20. 7/28. 16	〃 1/36	〃 74	〃 S47. 8/3. 4	〃 1/34	
最大3日連続雨量 (mm) M42年～H24年	〃 251	〃 T9. 8/10	〃 1/634	〃 217	〃 S23. 10/6	〃 1/184	〃 210	〃 S23. 10/5	〃 1/142	〃 209	〃 H10. 8/31	〃 1/137	〃 194	〃 S23. 9/16	〃 1/78	
最大連続旱天日数 (日) M42年～H24年	〃 41	〃 S59. 7/17	〃 ・ ・ ・	〃 38	〃 S3. 7/18	〃 ・ ・ ・	〃 37	〃 S18. 6/30	〃 1/788	〃 31	〃 S39. 7/20	〃 1/46	〃 29	〃 H11. 7/26	〃 1/22	

第3節 水利状況

第1項 用水状況

本地区の用水は、田瀬ダムを水源とする国営かんがい排水事業猿ヶ石地区東部幹線用水路から分岐している角川原支線用水路と、広瀬川を水源とする新地野頭首工から取水する用水路により、かんがいされている。

地区内の用水路は、土水路で断面も一定ではなく、用排兼用となっている。そのため、漏水による用水の損失や、法面の崩落等による通水障害も生じており、維持管理等に多大な労力と経費を費やしている状況である。

第2項 排水状況

本地区の排水は、すべて自然排水で行われ、地区内排水路を経て、一級河川広瀬川に流入する。

地区内の排水路は、水路底が浅く、地表排水のみが排水可能であり、水田の汎用化が行えない状況である。

また、大部分は土水路で、法面の崩落等による通水障害も生じており、維持管理に多大な労力と経費を費やしている。

第4節 営農状況
専業別農家数及び平均経営耕作面積

R2 農林業センサス
H27 農林業センサス

戸数		項目	専業	第一種兼業	第二種兼業	計	一戸当たり平均経営耕地面積	田	普通畑	その他	計	地域指定等		
専業別	奥州市	戸数	-	-	-	-			1.64	0.18	〃	1.85	〃	〃
		割合	1,851 戸	807 戸	5,133 戸	7,791 戸	1.17 ha		0.13 ha	0.03 ha	1.33 ha	農業振興地域	S45年度	
	本地区	戸数	-	-	-	-	88.7		9.7	1.6	〃	〃	〃	〃
		割合	23.7 %	10.4 %	65.9 %	100 %	88.0 %		9.8 %	2.2 %	100 %	過疎地域	H12年度	
本地区	戸数	〃	〃	35	50	〃	〃	0.0	〃	〃	〃	〃		
	割合	10 戸	5 戸	34 戸	49 戸	0.9 ha	ha	0.3 ha	1.2 ha	振興山村	S44年度			
		割合	20.0 %	10.0 %	70.0 %	100 %	75.0 %	〃 %	25.0 %	100 %	〃	〃	〃	
			20.4 %	10.2 %	69.4 %	100 %								

上段:変更後
 下段:変更前
 R2 農林業センサス
 H27 農林業センサス

経営農用地広狭別農家数

区 分	農 家 総戸数	経営農用地広狭別農家数									耕地の分散状況		一戸当たり 平均耕地面積
		0.5ha 未満	0.5ha ～ 1.0ha	1.0ha ～ 1.5ha	1.5ha ～ 2.0ha	2.0ha ～ 3.0ha	3.0ha ～ 5.0ha	5.0ha 以上	自給的 農家	例外規程 の適用を 受けるもの	一戸当たり 団地数	団地当たり 面 積	
奥州市	8,200 10,189	— 1,019	— 2,272	— 1,543	— 1,028	— 1,003	— 534	— 374	2,127 2,398	— 18	// —	a —	a 133

第5節 地域環境の概況

本地域は、丘陵地に豊かな田園風景を形成し、隣接する水路や山林などには手つかずの自然が残っている。また、地域内には、
 「環境省レッドリスト」及び「いわてレッドデータブック」に登載されている希少種及び希少種の食餌動植物等生育・生息に不
 可欠な種、良好な環境の指標となる種の生育・生息が確認されている。

地域ではそれらの生態系に配慮し、隣接する森林などの水源地の保全や、排水路の維持管理に取り組んでいる。

第1節 計画の要旨

本計画により高生産性ほ場を造成することにより、区画形質の改善、用排水路と農道の整備、換地による農地の集団化を総合的に実施し、農業生産性の向上を目指す。また、暗渠排水を施し、農地の汎用化を促進して、農作業効率の向上を図るとともに土地の生産性を高める。

環境との調和への配慮として、近傍の類似環境地への移植や生育・生息に支障がないような最小限の整備に努めるなど、生態系に配慮した計画とする。

事業計画一覧表

種 別	事 業 量	摘 要
区 画 整 理	整地工 41.2 45.7 ha	〃 耕区100m×30m=30a
	道路工 10,977 10,433 m	支線道路 砂利道B=5.0 (4.0)、砂利道B=4.0 (3.0) 支線道路 砂利道B=5.0 (4.0)
	用水路工 14,136 9,894 m	パイプライン (塩ビ管) VU200~VU75、鉄筋コンクリートベンチフォーム300型・400型 パイプライン (塩ビ管) VU200~VU75、鉄筋コンクリートベンチフォーム300型
	排水路工 11,080 11,370 m	〃 小排水路 鉄筋コンクリート排水フォーム HF300×300~HF800×800
	暗渠排水工 41.2 45.6 ha	〃 吸水渠H=0.6m φ50~60m/m、集水渠 H=0.6m φ50~65m/m

第4章 工事又は管理の要領

上段: 変更後
下段: 変更前

第1節 工事の施工計画

1. 工事は、全て県営事業により行い、請負工事とする。
2. 施工は、農業土木工事共通仕様書による他、特記仕様書による。

第2節 管理の要領

- 施工後の諸施設の管理等は、奥州市及び江刺猿ヶ石土地改良区が行う。
1. 農業用道路の管理は奥州市が行う。
2. 小排水路の管理は江刺猿ヶ石土地改良区が行う。
3. 用水路の管理は江刺猿ヶ石土地改良区が行う。

第3節 予定工期

令和9年度
平成27年度～令和5年度

第5章 換地計画の要領

第1節 換地計画樹立の必要性

地区内は、小区画水田(5～10a)かつ不整形で農道幅員2.0m～3.0mと狭小であり、大型農業用機械の有効活用や農産物の円滑な搬出に支障をきたしているほか、地区内の用排水路は老朽化し維持管理に労力を要している。また、地区内の農地が分散錯圃しているため、担い手の営農の効率化及び規模の拡大に支障をきたしている。

このような状況を解消し、効率的かつ省力的な営農を展開するため、ほ場整備を行うとともに、換地による集団化を図り、担い手への作業受委託の促進を図り、担い手中心の生産性の高い農業を実現できるように換地計画を樹立する必要がある。

第2節 換地計画樹立の基本方針

第1項 従前地の地積の基準

換地交付の基準とする従前土地の地積は、土地改良事業計画の決定の日の登記簿地籍とする。但し、上記の日から1年以内に土地家屋調査士の測量した実測図に、隣接所有者の同意書を添付して申出があった場合は、その申出地積とする。

第2項 農用地集団化の方針

上段:変更後
下段:変更前

区分 換地区	地帯別グループ 別団地の設定	個人別換地の方法		
		位置の選択方法	一戸当り目標団地数	区画畦畔の取り扱い
// 全工区	// 担い手別集団化	// 予め特殊地の選定を行った後、各人の従前の土地が最も密集した位置を基本とするが、育成すべき担い手の経営農用地を中心として集積が図れるように配慮する。	// 1~3団地	// 移動畦畔

第3項 清算の方法

//
比例地積清算方式

第3節 土地改良法第5条第6項に規定する国有地等の編入承認に係る地積

(単位:ha)

用途	公用公共用地				一般国有地	合計
	国有地	県有地	市町村有地	計		
用悪水路			// 2.0	// 2.0		// 2.0
公衆用道路			// 5.1	// 5.1		// 5.1
雑種地		0.0		0.0		0.0
計		0.0	// 7.1	// 7.1		// 7.1

第4節 非農用地の換地方法

//
該当なし

上段:変更後
下段:変更前
(単位:㎡)

区分 換地区名	用途	非農用地区域の位置の概略	面積(㎡)	換地の手法	換地取得 予定者	備考
計						

上段:変更後
下段:変更前

第6章 費用の概算

単位:千円

事業名 項目	総事業費		負担内訳				備考
	費目	金額	国費 (55.0%)	県費 (30.0%)	地元負担 (15.0%)		
					市町村 (10.0%)	農家 (5.0%)	
経営体育成基盤整備事業 (区画整理)	事業費	1,587,000 1,138,000	872,850 625,900	476,100 341,400	158,700 113,800	79,350 56,900	
	費目	金額	国費 (0.0%)	県費 (100.0%)	地元負担 (0%)		
					市町村 (0.0%)	農家 (0.0%)	
	工事雑費						
	事務費						
	計	1,587,000 1,138,000	872,850 625,900	476,100 341,400	158,700 113,800	79,350 56,900	

第7章 効用

上段:変更後
下段:変更前

項目 区分	区画整理 (千円)				備考
	便益額	所得額			
農業生産向上効果 (作物効果)	7,944 8,928	5,962 5,414			
農業経営向上効果 (営農経費)	92,167 80,629	94,296 82,321			
農業経営向上効果 (維持管理)	△ 386 △ 414	872 642			
生産基盤保全効果 (更新効果)	〃 —	〃 —			
生活環境整備効果 (非農用地等創設効果)	〃 —	〃 —			
農村の持続的発展に関する効果 (耕作放棄防止効果)	36 3	〃 —			
農村の振興に関する効果 (地籍確定効果)	829 651	〃 —			
国産農産物安定供給効果	4,251 2,879	〃 —			
合計	104,841 92,676	101,130 88,377			総費用総便益比 = 1.10 1.38

第8章 他の事業との関係

区分	事業名	事業主体	受益面積	工期	事業費 (百万円)	前年度までの進捗率	事業との関連
異種							

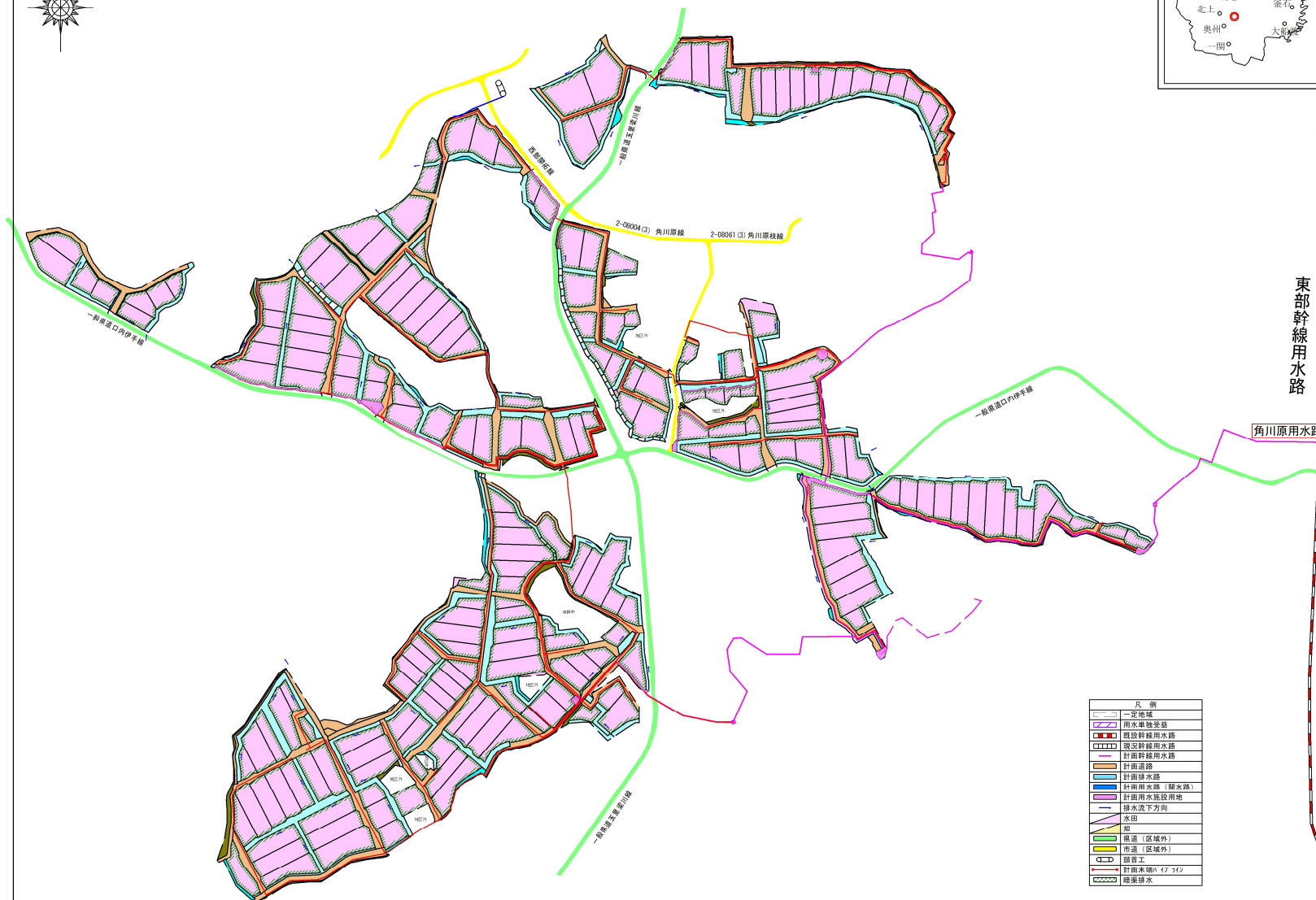
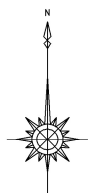
第9章 計画概要図

別添

角川原地区 計画概要図

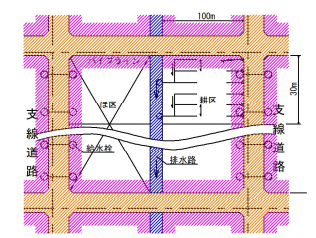
【区画整理】

A=41.2ha

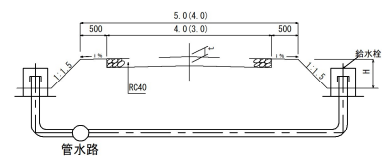


凡 例	
[Symbol]	一定地域
[Symbol]	雨水集水受皿
[Symbol]	既設幹線用水路
[Symbol]	現況幹線用水路
[Symbol]	計画幹線用水路
[Symbol]	計画排水路
[Symbol]	計画排水路
[Symbol]	計画雨水路（排水路）
[Symbol]	計画雨水路（排水路）
[Symbol]	排水路下方向
[Symbol]	水田
[Symbol]	畑
[Symbol]	構造（区域外）
[Symbol]	構造（区域外）
[Symbol]	道路
[Symbol]	計画排水幅4.7m以上
[Symbol]	暗渠排水

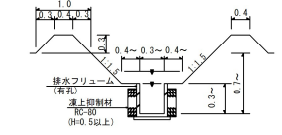
標準区画面割図



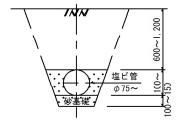
支線道路



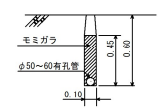
小排水路



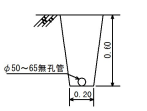
管水路



暗渠排水給水渠



集水渠断面図



暗渠排水

